

＜専攻・研究科新入生の皆さんへ クラス担任・学年担任の先生よりご挨拶＞  
先進理工学研究科生命理工学専攻 ナノ理工学専攻 共同先端生命医科学専攻 共同先進健康科学専攻 共同原子力専攻  
国際情報通信研究科 環境・エネルギー研究科



学の深耕と異分野の交わりを大切に

清水 功雄

Shimizu, Isao 教授 生命理工学専攻

生命理工学専攻は、本年度で11回目の新入生をむかえます。本専攻の特色は、多様な専門性を基盤にし、その融合教育をはかることにあります。研究室を越えたプロジェクト研究の機会が多いのも特色です。一方、新しいものをつくるためには、異分野融合だけでなく、そのための各領域の基礎をしっかりと学び、いつでも応用可能な高度な専門力を身につける必要があります。その上で、「生命」を生物学だけでなく機械、電気電子、物理、化学、情報科学などの多様な領域の学生と交わり、将来、生命理工学の知識を社会に活用できる研究者、技術者として活躍されることを期待しています。



融合領域の新しい研究を推進するために

庄子 習一

Shoji, Shuichi 教授 ナノ理工学専攻

ナノ理工学専攻は、物理学、材料科学、化学、エレクトロニクスの素養を身に着けた分野の異なる学生が所属する学際的な専攻です。日本の科学技術推進の目標としてグリーンイノベーションとライフイノベーションが掲げられていますが、これらの新しい研究は境界領域にこそあると言え、違う基礎知識を持った学生同士が一堂に会し教育を受ける当該専攻は両分野の研究を進める上で大きな役割を果たすと信じています。博士後期課程の学生の学生数が多く、最先端の研究を実施する環境が整っており、修了生に対する産業界からの期待も大きいものがあります。これから修士課程で充実した研究を行って、多くの学生が引き続き博士後期課程へ進んでほしいと思います。



走りながら考える

梅津 光生

Umezu, Mitsuo 教授 共同先端生命医科学専攻

共同先端生命医科学専攻へのご入学、おめでとうございます。新入生の皆さん方は2期生ですが、教員、1期生とともに一丸となって、医療のレギュラトリーサイエンスを学問として確立するという大きな目標を共有しましょう。確立されてないことを走りながら考えて進める楽しさが共有できればうれしいです。また、東京女子医科大学と早稲田大学の両方の学生証を持参するというメリットを大いに生かして、実りある学生生活を送っていただきたいと思います。特に、5月末の早慶戦、お正月の箱根駅伝などは、今までと違った視点で応援することになると思いますので、どうか、それも楽しみにしてください。



人生は挽回あり。「進取の精神」と「健康第一」で！

鈴木 克彦

Suzuki, Katsuhiko 准教授 共同先進健康科学専攻

早稲田大学の校歌に「進取の精神」という言葉がありますが、2010年にわが国初の国立大学と私立大学の共同大学院『共同先進健康科学専攻』が設置されました。クラスには、高校卒業時に東大紛争のため進学を断念し、就職・子育てを終えてから第二の人生ということで一念発起され、学部→修士→博士課程へと学びを進めてこられた方を筆頭に、社会人・医療関係者・新卒といろいろな方がいます。体力・記憶力に任せた新人教育を逸脱し、共に教え合い、学び合い、助け合って各自の問題解決に取り組んでいます。皆さん、進取の精神を忘れず健康第一で、無理せず着実に研究を進めていきましょう！



大学院生活・研究を楽しみましょう

師岡 慎一

Morooka, Shinichi 特任教授 共同原子力専攻

入学おめでとうございます。4月から大学院生活が始まります。

大学院での生活そして研究を楽しみましょう。

楽しむための秘訣は ①自分で考える。②友達と沢山議論をする。③ルールを守る。ルールを守らないで、事故などが発生したら 折角の大学院生活もだいなしです。是非、ルールを守って、一生に一度しかない大学院生活・研究を楽しんでください。私は30数年にわたる会社生活の経験があります。わからないこと、困ったことがあったら、是非私の部屋のドアをノックしてください。一緒に考えましょう。 世話好きなクラス担任より・・・



新日本の創造

嶋本 薫

Shimamoto, Shigeru 教授 国際情報通信研究科

今回の大震災は戦後の焼け野原を彷彿とさせますが、日本は戦後の何もない状況から復興して世界でも有数の経済大国になったのは世界が認めるどころです。勿論、日本は現在のこの状況からも復興し、更なる発展を遂げなければなりません。ただ、それには震災前には考えられなかったような困難や、様々な障壁があると思われます。皆さんは日本の未曾有の危機であるこの時期に入学した学生であり、震災後の学生第一号です。早稲田大学での生活が無駄なく、有意義なものになるよう常に心がけて過ごし、自分が日本に何ができるかを問い続け、新しい日本を作って下さい。



「生きる」と「学びあう」こと

友成 真一

納富 信

Tomonari, Shinichi

Nohtomi, Makoto

教授

准教授

環境・エネルギー研究科

環境・エネルギー研究科

環境・エネルギー研究科の新入生のみなさん、当研究科のコミュニティの一員となられたことを歓迎します。当研究科のモットーは、「文理融合」「現場・現物・現実主義」に代表されます。さて、みなさんにとってこのモットーはどんな意味をもつのでしょうか。ある哲学者は、『「環境・エネルギー問題」の深奥には、コミュニケーションの欠落がある』と言っています。

当研究科のアプローチは、まさにこの「コミュニケーションの欠落」との闘いそのものです。

「文と理」「理論と現実」「学生どうしの多様な価値観」「教員と学生」「大学と社会」の間を、コミュニケーションによりつないでいくこと。

この格闘を通じて、一緒に学びあいたいと思います。